

やっと春が来ました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月04日

今年も待ちに待った春がやってきました。
しながわ中央公園のパーゴラ横にあるソメイヨシノが、4月2日（月）2～3輪の花を咲かせました。来週（4月9日～の週）は見ごろになるでしょう。

東京の桜の開花（靖国神社の標本木）は3月31日で、遅かった昨年よりも3日、平年より5日遅かったそうです。数日前からの日中の好天が開花を促進したようです。

2日の朝（9時前）には開花直前のピンク色の蕾でしたが、16時には開花していました。暖かい日差しが桜の花を咲かせてくれました。

季節の到来を忘れない自然の尊さ、ありがたさを感じました。



しながわ中央公園パーゴラ横の桜の木影

昨年の満開の桜（平成23年4月8日撮

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月04日

春の目黒川

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月10日

目黒川にも春が来ました。目黒川は全長8キロほどの二級水系の本流です。その起点は東京都世田谷区の三宿あたりで、北沢川と烏山川が合流して目黒川となり、目黒、品川区と流れ東京湾に注ぎます。

下の写真は、大崎居木橋から撮影したのですが、いま桜が見頃。ゆらゆらとしなやかに流れる川沿いの桜並木がとても素敵です！じき満開となるでしょう。この辺りには他にも桜の名所がたくさんあります。是非、お出かけください。一見の価値ありですよ！



大崎居留木橋から

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月10日

「みどりと花のフェスティバル」開催（西大井広場公園）

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月10日

2012年4月7日（土）8日（日）、西大井広場公園で「みどりと花のフェスティバル」が開催されました。広いグラウンドでは、工作、ミニ動物園、寄せ植え展示、植木の販売、休憩所などのコーナーがあり、多くの方が春の休日を楽しみました。工作コーナーでは、しながわ区民公園内の剪定枝をいろいろな大きさに輪切りにしたものが置かれ、それをボンドで貼ったり、絵具で色を付けるなどして、オリジナル小物を作り上げていました。



ミニ動物園のコーナーでは、ウサギやモルモット、ハムスターなどと触れ合える「ふれあいどうぶつえん」、ポニーに乗れる「ポニー乗馬」などがありました。動物にさわったり、抱っこすることができ、都会の子どもでは少なくなった動物との触れ合いを通して、命の大切さを学ぶ良い機会だったと思います。



11時と14時にはパンジー、ノースポール、ナデシコ、キンギョ草の花苗の無料配布（各回100名）が行われ、大勢の来場者が列を作っていました。

また寄せ植えの展示コーナーでは、秋草会のみなさんが作品を展示し、育て方の質問にも答えていました。

春と秋、品川区内の4か所の公園で行われるこのフェスティバルは緑と花に親しみながら、いろいろなイベントを体験することができ、かつ環境も考えられる楽しいものです。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月10日

‘みどりと花のフェスティバル’開催（東品川海上公園）

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月20日

4月14日(土)～15日(日)、東品川海上公園で「みどりと花のフェスティバル」が開催されました。15日(日)は好天に恵まれ、前日が雨だったせいもあり、多くの来場者がいろいろなコーナーやイベントに参加していました。

●ミッフィーの押し花作り

ミッフィーを描いた台紙に公園の花で作った押し花を貼りました。（左下写真）

●ステンシルでオリジナルカード作り

今日使ったステンシルはプラスチックの薄い板で、簡単なイラストの形がくりぬかれています。白いカードにステンシルを当て、くりぬかれている部分に絵具を塗ると楽しい絵が描けました。（右下写真）



●ポプリ作り

ハーブ・バラ・スパイスを使ってオシャレなポプリづくりをしました。



ポプリをつくみましょう

① ポプリのサンプル A～Eの中から、お好きな香りをお選び下さい。 	② 選んだサンプルのレシピをもとに、材料をカップに入れる。 	③ ミキサーに入れてもみ込むように混ぜて香りを立たせる。 	④ オーガジーでポプリを包み、輪ゴムでとめてひもでリボン結びをする。
---	---	--	--

お好きなハーブを Mix してオリジナルのポプリ作りもお楽しみいただけます

リラクゼーション系：ローズ、ラベンダー、センテッドセラニューム

リフレッシュ系：レモングラス、ミント、レモンバーベナ、ローズマリー

●植物クラフト作り

公園のどんぐりや剪定枝などを使ってフォトフレームや木製のアクセサリ作りを

体験しました。

(左下写真)

ハーブを使って香りも形もオリジナルなせっけんを作りました。(右下写真)



これらの他に寄せ植え指導や苗の販売、チューリップラリーなどもあり、参加者は東品川海上公園でのひとときを楽しんでいました。

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年04月20日

‘みどりと花のフェスティバル’開催（戸越公園）

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月24日

4月21日(土)～22日(日)、戸越公園で「みどりと花のフェスティバル」が開催されました。

21日（土）の様様をご紹介します。

花鉢の無料配布があり、この日（21日）は11時と14時の2回・計200名に配布されました。

配布されたのはマーガレット、リビングストーンジー、ナスタチュームで、多くの人を受け取って帰りました。



戸越公園で生まれ育ったポット苗のプレゼントもありました。
また用土肥料販売では、黒土が詰め放題で販売されていました。



‘ふれあい作業所’の出店コーナーでは、同作業所の皆さんがきれいにしたリサイクル自転車、古布や牛乳パック、新聞チラシなどを再利用した小物や布製品などハンドメイド雑貨などの販売がありました。



盆栽の展示会もありました。
草花を愛するグループ、山草会、盆品会、戸越盆友会が出品し、様々な相談にも答えていました。



苗木・花苗を買った人を対象に抽選会を開催しており、たまたま胡蝶蘭をゲットした人の笑顔に遭遇しました。

戸越公園は江戸時代には熊本藩の下屋敷で、その後所有者が変わり、昭和25年に品川区に移管された区内でも由緒ある公園です。今日では歴史的な武家屋敷の風情を感じることができます。

先日（4月6日）には満開の桜の下で、多くの人が花見を楽しんでいました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年04月24日

‘みどりと花のフェスティバル’（しながわ区民公園）

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月02日

春の‘みどりと花のフェスティバル’の最後を飾って、4月28日(土)～29日(日)、しながわ区民公園で「みどりと花のフェスティバル」が開催されました。先日までの寒さがうそのように、特に29日（日）の東京の最高気温は26℃と初夏を思わせる暑さでした。

●工作コーナー

公園での剪定枝を使って、オリジナル小物を作りました。

まずは大きさの異なる材料を選びます。絵の具で思い思いの絵を描きました。



●フラワーアレンジメント教室

土日とも定員25名で開催され、皆さん和気あいあい楽しみながらアレンジに挑戦していました。



●「虫」やトカゲと遊びました

「虫」はメタセコイヤの実（小さな松ぼっくりのようです）に細い針金を足にして、かわいらしく目をつけてあります。当公園の管理事務所長さん手作りの「虫」で、もらって帰る人もいました。

トカゲは本物で、手のひらの上でおとなしくしていました。敬遠した子もいましたが、初めてトカゲに触れた子、これも自然体験ですが、良い経験をしましたね。

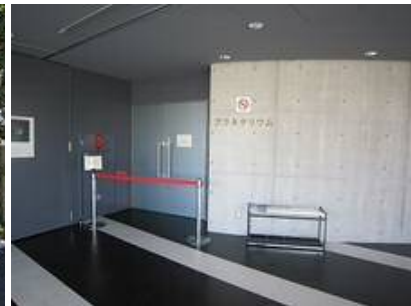
品川区のプラネタリウム

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月16日

5月5日(土)品川区のプラネタリウムに行ってきました。場所は五反田文化センター5階、星空の投影は土・日・祝日の◆11時、◆13時30分、◆15時30分の3回です。◆は親子向けの投影ですから、◆の一般向け投影を見学しました。投影時間は約50分間で、前半には4・5月「当日の空の解説」、後半には特集で、4・5月は「5月21日金環日食を見よう」でした。

【入場料金は4歳以上～中学生50円、一般200円（特別投影は別料金）、毎月広報しながら21日号にプラネタリウムの予定が掲載されています】



4・5月の星空では、品川区役所上の夜空に、月が昇って落ちるまでがスクリーンに大きく映し出されました。火星や土星など惑星の解説、おとめ座のスピカ、しし座のレグルスなど一等星の紹介、星と星を線で結んだ「春の大三角」や「春の大曲線」など、小学生の時に勉強して星空を見上げた記憶がなつかしく蘇りました。星座の絵もスクリーンに現れましたが、絵から星座のイメージを膨らませるのは難しいですね。翌日5月6日は満月ですが、月と地球の位置が最も近くなるスーパームーンとのこと。この満月はいつもより大きく見えるそうです。

後半の金環日食の特集では、皆既日食、部分日食、金環日食の説明、金環日食の見方など参考になるお話がたくさんありました。昔は下敷きや煤(ス)を付けたガラスで見た記憶がありましたが、現在では紫外線などの光は目に良くないので、日食用の特別なグラスで見るようにとの指導がありました。

日食とは太陽の手前を月が横切るため、太陽の一部又は全部が月によって隠される現象をいいます。月の視直径が太陽より大きく、太陽全体が隠される場合を皆既日食、逆の場合は月の外側に太陽がはみ出して細い光輪状に見えます。これを金環日食といいます。

品川区は今回の金環日食がちょうど良く見える地域です。金環日食の始まりは、朝7時31分59秒から7時34分30秒までの約5分間です。このような大きな金環日食は、2030年6月1日北海道で見られる金環日食まで18年間起こらない非常に珍しい現象とのこと。ぜひ見たいですね。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月16日

池田山公園に行ってきました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月16日

5月5日(土)池田山公園に行ってきました。池田山公園は備前岡山藩池田家の下屋敷の跡地で、池田山の自然な高低差を生かした回遊式の日本庭園です。1985年に庭園部分が品川区の区立公園として開園されました。秋は紅葉の名所として知られていますが、春は桜、かたくり、つつじ、さつきなど花も美しい公園です。今年はなかなか暖かくならなかったせいで、例年なら満開のつつじが3分咲きというところでした。そのかわり山野草のエビネが満開で、すずらんやしゃくなげも咲き、モミジの新緑が池のまわりに輝いていました。



(左からつつじ、エビネ)



(左からシャクヤク、モミジ)

五反田駅から徒歩15分、住宅街で分かりにくかった道も道標が設置され、手書きの地図も「ねむの木の庭」と「池田山公園」に置いてありました。「ねむの木の庭」「自然教育園」「庭園美術館」には歩いていけます。「ねむの木の庭」の薔薇は2輪しか咲いていませんでしたが、クリスマスローズなどの草花が咲いていて、これからさらに美しい季節を迎えます。



カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年05月16日

浜川中学校での清掃活動

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月16日

5月11日（金）午後4時から浜川中学と北浜川西町会の皆さんが地域の清掃活動を行いました。このところ午後各地で雷が発生し、つい先日は栃木県、茨城県で竜巻による大きな被害が出ました。今日も地域によっては雷が予想されていたため、少しばかり雨の心配をしましたが、それは杞憂に終り、無事に清掃活動を終わることが出来ました。

生徒さん16名と地域の皆さん6名が2班に別れて、中学校周辺の道路に落ちているごみ拾い。この地域では日頃地域清掃がなされているためか、比較的「収穫？（ごみ）」が少ない印象を受けました。

参加した生徒さんは、生徒会の中の専門部会・ボランティア委員会のメンバーで、積極的な活動が目につきましたが、地域の方と一緒に活動することにより、地域の活動に役立ちたいという気持ちの表れと思いました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月16日

プリンセスミチコが見ごろを迎えました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

5月19日(土)の昼下がり、皇后美智子さまのご実家跡に作られた「ねむの木の庭」を訪れました。お目当てはプリンセスミチコ(*)です。庭の手入れをしていらした方によると、まさに今が見ごろとのこと、幸運でした。素晴らしい花園の様子をご覧くださいだけたらと思います。

剪定のはさみの跡のくきやかに 薔薇(さうび)ひともといのち満ち来ぬ
(皇后陛下御歌集「瀬音」より)



*プリンセスミチコ

バラの品種。フロリバンダ系の品種で、花の色は濃いオレンジ色、赤。昭和41年(1966年)、イギリスのディクソン社(Dickson Nurseries Limited)から当時皇太子妃だった美智子さまに献上された。





カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

池田山公園のサツキが咲き始めました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

5月19日（土）、新緑のまぶしい池田山公園に出かけました。園内のサツキが咲き始めています。昨年は5月末に見ごろを迎えました。今年ももうすぐですね。高低差のある起伏に富んだ地形の回遊式庭園に、サツキの鮮やかな色が美しく映えることでしょう。





カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

「スポーツGOMI拾い大会in大井」開催

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

5月20日(日)「2012年度スポーツGOMI拾い大会in大井」が開催され、集合時間の13:30には今回参加の約100チーム(5名/チーム)500名が大井町駅前中央通りに集まりました。

この企画は「環境美化」「3Rの推進」に重点を置いた、行動変容を促すプログラムで、ごみ拾いを「環境奉仕活動」から「スポーツ・競技」へ変換することにより、参加者同士が楽しくスポーツとしてごみ拾いを行うことを通して、参加者の環境に対する意識を向上させようとするものです。

スポーツですからルールがあります。

競技時間60分の間に、指定されたエリア（大井サンピア商店街、大井銀座商店街、大井光学通り商店街）内で拾ったごみの質と量を競うものです。ごみにはそれぞれポイントが決められており、たばこの吸い殻は100g（以下同じ）で100pt、ビン・缶・ペットボトル、燃えるごみは10pt、燃えないごみは5ptなどです。規則に反する行為など減点対象の行為もあり、またスポーツチームのユニフォームを来たチームが多く、しっかりとしたグループ行動が一層スポーツ大会であるとの印象を受けました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月23日

ジュネーブ平和通り歩道の清掃活動

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月25日

5月14日（月）17:45～18:30、昨年度のしながわ環境大賞を受賞した株式会社日立ソリューションズのみなさんが、就業後にジュネーブ平和通り歩道の清掃活動を行いました。

この清掃活動は通常は月2回行っていますが、新人の参加が多いこの時期は雨天の日を除き、6月下旬まで毎週予定されています。

当日は新入社員を中心に21名が参加し、歩道に落ちているごみ、ツツジの咲く歩道の植え込み周辺や車道脇の側溝などのごみを、トングを使って丁寧に拾いました。

この活動に参加した理由を新人の方に聞いてみたところ、「小学生の頃にこういった清掃活動をした記憶はあるが、最近はしていないので」、「この活動を通じて会社周辺の街を知ることができる」、「会社がやろうという行事に参加するのは当然」など、頼もしい声も聞かれました。さらに「意識して見るとごみは結構落ちていることが分かった」というように、目的を持って行動すると新たな事実が発見できることも身体で知ることができたようです。

日の長い夏場は就業時間後に、冬は早朝に活動しているとのことでした。環境大賞を受賞した企業として、「継続は力なり」を感じました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月25日

‘山中おやこエコクラブ’金環日食観察会

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月29日

5月21日（月）‘山中おやこエコクラブ’が金環日食観察会を行いました。当日は雲の隙間から時々顔を出す太陽を専用メガネで見ましたが、これほど太陽が恋しいと思ったことはありませんでした。また自然が作り出す不思議や神秘を感じました。

当日は470名の方が集まりましたが、「山中おやこエコクラブ」の情報発信力が団結力、結束力につながっていると思います。

写真は、太陽が現れるのを今や遅しと待っているところです。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月29日

「山中おやこエコクラブ」今年度スタート

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月29日

5月19日（土）学校説明会に引き続き、11:40から今年度の「山中おやこエコクラブ」がスタートしました。今年度はこれまでの「山中子どもエコクラブ」が、保護者と地域の方々との連携することにより、名称を「山中おやこエコクラブ」とし、自然と触れ合うイベント企画や学校の屋上菜園の管理作業などの活動を行うことにしています。

はじめに田邊校長先生から、この活動を学校の中心イベントの一つにしたい旨の話があり、昨年度のしながわ環境大賞を受賞した「山中子どもエコクラブ」の活動紹介（ガイダンス）に続き、屋上菜園でトマト、きゅうりなど夏野菜の苗植え作業を行いました。



平成21年度から継続しているこの活動は、今年度も毎月1回土曜日の午前中、主に校庭や屋上菜園で身近な自然に親しみ、環境にやさしい活動を行うことにしているとのことです。

子どもたちには、自然とかわるることにより環境を思う気持ちを育むとともに、危険だからダメとは言わないで、やりたいことをさせてあげたいといった話もありました。

環境大賞を受賞したグループとして、毎月計画された環境活動で「継続は力なり」

を感じました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年05月29日

‘山中おやこエコクラブ’（5月）開催

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月12日

5月26日（土）10～12時、‘山中おやこエコクラブ’で「プランターペイント&花のなえうえ」を行いました。

昨年につき、今年も自分達でペイントしたプランターに花の苗を植え、「世界中の子ども達と気持ちをつなげてみましょう！」を合言葉にケナフの種まきもしました。

自分の背丈を越すのはいつ頃だろう？

ケナフの花のジュースってどんなんだろう？

大切にそだてて冬には皆で紙すきを予定しています。

力作業満載なのでお父さんの参加、汚れても気にならない服装と軍手の持参もお願いしましたが、80名近くの参加を得ることができ、大盛況でした。



ペインティング



苗植え



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月12日

飛び地の公園「潮風公園」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月12日

6月2日(土)品川区内の都立潮風公園に行ってきました。潮風公園の場所をご存じですか。住所は品川区東八潮、東京臨海副都心の西端に位置し、港区台場と江東区青海に接しています。品川区ですが、2011年10月1日現在の人口は0人（住民基本台帳による）、潮風公園が東八潮のほぼ全域をしめています。大井町駅から京急バス[井]30番のバスで約30分、船の科学館前で下車しました。バス停前の岸壁には初代南極観測船「宗谷」が停泊し、船の科学館と「宗谷」に挟まれた公園が東八潮緑道公園です。



潮風公園お台場入口



東八潮緑道公園

潮風公園の前身は、東京港第1次港湾改訂計画に基づいて造成された13号埋立地の一画の「13号地公園」です。その後、この地域や周辺地域が臨海副都心として整備されるに伴い、平成4年から平成8年にかけて、全面改修工事が行われ「潮風公園」として整備され、現在は臨海副都心最大の公園でバーベキューやジョキングをする人でにぎわっています。アメリカデイゴ、ワシントンヤシ、ブラシノキなど南の国の植物が植えられており、海辺の風景が日本の公園でないような雰囲気でした。



ヤシの向うは船の科学館



バーベキューガーデン

南極観測船「宗谷」は無料で見学できますが、募金して見学しました。狭い通路や低い天井に驚きながら、一周しました。船内には日常を過ごす様子や氷山、昭和基地の様子などがわかりやすく展示されていました。「宗谷」を出て、東八潮緑道公園を進み、東八潮口から潮風公園に入りました。南コーストデッキから品川区八潮方面が展望できます。噴水広場を越えてしおかぜ橋を渡るとバーベキューガーデンがありました。大勢のグループがバーベキューを楽しんでいて、台場方向に帰るときにも参加する人々が次々とバーベキューガーデンへと向って来ていました。

品川区内ではありますが、飛び地の公園「潮風公園」は観光客の多いお台場海浜公園やフジテレビの付近とは全く違った趣きがあります。広々とした公園で自然と親しむ環境を味わってみませんか？

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月12日

アジサイの季節です

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月18日

梅雨のこの時期、しながわ区民公園では色とりどりのアジサイ約230株が私たちに迎えてくれています。6月16日（土）雨に煙るしながわ区民公園を訪れました。通常私たちが呼んでいるアジサイ（紫陽花）は、日本原産のガクアジサイを品種改良したセイヨウアジサイだそうです。

アジサイは、咲き始めの薄黄緑色から青、赤、紫色などと様々な色を見せてくれます。花（正しくはガク）の色が様々であることや、咲き始めから枯れるまでに色の変化がおこることから「七変化」などの別名があることなど、IT時代の今日、自然の不思議さを改めて感じました。

植物は季節の変化を正確に覚えていて、私たちに季節の到来を知らせてくれます。



また区民公園内には小径があり、都心にいることを忘れさせてくれました。

★こちらは街中に咲くアジサイ

・荏原町駅近く



・南大井

・区役所前



カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年06月18日

しながわ花海道でコスモスの種まきがありました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月27日

平成24年6月24日（日）10～12時、しながわ花海道プロジェクト「2012年コスモスの種まき」が開催されました。

梅雨真っ最中の時期ですが、この日の午前中の花海道は薄曇りで、時折太陽が顔を出し、種まきには適した天気でした。

今日参加できないグループはすでに整地し、種まきが終わっていました。



対岸でも多くの方が協力して作業をしていました。ふと見るとクロアゲハでしょうかジャコウアゲハでしょうか、ラベンダーの香りに引き込まれている光景が、自然の営みを感じさせてくれました。

秋には赤やピンク、白など、色とりどりのコスモスが咲き乱れるのが楽しみです。

（写真は昨年10月上旬撮影）



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年06月27日

(株)ニコン大井製作所で環境月間セミナー開催

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年07月09日

6月19日（火）◆ニコン大井製作所で、環境月間セミナー「『自然共生』日本の可能性と企業への期待」（講師：慶應義塾大学大学院教授 小林 光 氏）が開催されました。

大井製作所は継続的な環境活動の推進に対し、昨年度のしながわ環境賞を受賞しています。



●セミナーの一部をご紹介します。

・原発に頼れない中、「温室効果ガス2050年80%削減」という目標が可能だろうか？

次のような試算を考えてみよう。CO2排出量はエネルギー需要側の要因とエネルギー供給側の要因の掛け算で決まる。片方だけ大きく減らそうとすると大変だが、それぞれを半分くらいにするのは決して不可能ではないと思う。

エネルギー需要の変化	エネルギーの低炭素化	2050年排出量
55%改善	55%改善	約80%削減
0.45	× 0.45	≒ 0.2

省エネ（エネルギー需要）と自然エネの導入（エネルギーの低炭素化）の組み合わせが「鍵」であり、80%削減を目指すには、例えば企業でいうと上流の部品供給者やお客様、工場の近隣の住民の方々の方々の協力によるCO2削減が必要である。

・協力の実際的なアイデアとして、地理的協力（工場、ごみ施設の廃熱利用など）、時間的協力（グリッドの中の充電電池の活用など）、サプライチェーンの協力（省エネ性能の高い部品・製品など）がある。

・東日本大震災および原発事故以降、人々の反応が変化している。省エネ行動や太陽光発電を導入したいと考える人が増えた。LED電球の販売も増加している。

・日本は環境特許を多く取得している。しかし中身を見ると、省エネに関する特許は多いが、再生可能エネルギーについてはそれほど多くはない。

●まとめとして

私たちは「3.11」により、ネグレクトしてきた社会的費用が顕在化すると、いかに大きな悪影響が生じるかを経験した。生産要素のサプライサイドの単独の努力から消費者の支持や社会の協力が得られることへの発想の転換が必要である。

●受講後の感想

上記はセミナーのほんの一部ですが、いつの間にか話の中に引き込まれ、1時間半という時間が過ぎていました。

聴講、文責：品川区環境情報活動センター事務局

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年07月09日

「打ち水大作戦・しながわ2012」開催

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年07月24日

7月22日（日）、三木小学校で開催された‘品川区民まつり’の中で「打ち水大作戦・しながわ2012」が行われました。

打ち水はこの時期に全国で行われている夏の風物詩ですが、打ち水をしたらなぜ涼しくなるのでしょうか？皆さんがお風呂から上がった時「体をよくふきなさい。湯ぞめするよ。」とお母さんに言われたこと、ありませんか。これは「気化熱」といって、水分が体の表面から蒸発する際に熱を一緒に奪うからです。

カウントダウンの後に「しながわを涼しくしよう！」のかけ声に合わせて一斉に打ち水が始まりました。当日は、打ち水には多少涼しく感じる気温でしたが、翌日からは夏の天気予報がされており、その時のためにも今日は予行演習になったのではないのでしょうか。

今年の「打ち水大作戦・しながわ2012」は7月22日から8月23日にかけて、区内十数地区で開催されました。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年07月24日

荏原中延・昭和通り商店会で「打ち水」をしました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月08日

8月4日（土）荏原中延・昭和通り商店会において、毎月第一土曜日に開催されている「夕市」の中で「打ち水」が行われました。

今月の「夕市」では昭和通り商店会のマスコットキャラクター「しょうちゃん」が登場し、当商店会のテーマソング“しょうちゃん”音頭が品川区出身で在住の歌手、中里アミさんによって披露されました。



“しょうちゃん”音頭を企画した、アートディレクターの大寿美さん（field代表）は、「品川区内の品川区生活密着型小規模商店街元気づくり事業の一環で、商店街をアートの力でも盛り立てようと関わらせていただきました」とお話しされていました。

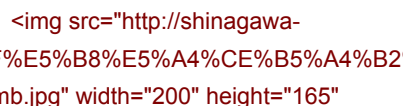
さて打ち水の開始です。

打ち水をする前と後の気温は、地上1mで31℃弱から約30℃へ1℃弱、地面の温度は34℃強から32.5℃へ1.5℃強低下しました。

午後5時半過ぎという打ち水を行うには適した時間帯で、その後も涼しさを感じることが出来ました。

8月4日の「天声人語」に「漢字の文化はありがたいもので、「涼」の字を眺めるだけで、ふっと体感温度が下がる気になる。」とありましたが、今日の打ち水でもそんな気がしました。





打ち水をする子どもたち

デジタル温度計

カテゴリ：平成24年度

投稿日 : 2012年08月08日

ミッフィー公園の屋上庭園

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月10日

7月7日、東品川海上公園にお邪魔してまいりました。天王洲アイル駅からアイル橋方面へ徒歩8分。ミッフィーの公園としてご存じの方も多いかもかもしれません。施設も比較的新しい公園ですが、緑も多く手入れの行き届いた、ボードウォークの素敵な公園です。



見逃してはならないのがポンプ所の上にある屋上庭園。ホワイト、パステル、イエロー、レッドと色別をテーマに植えられた花々が見事で、いつ行っても咲く花が見られるよう常時300種以上（ダリアだけでも50～60品種）が、ガーデナーとボランティアによって育てられています。



当日は時々雨が降る中で、ボランティアの方々が作業中でした。
管理事務所前の黒ペチュニア（右下写真）

小 笠 原 村

小笠原村紋章



円は、太陽と円満と昇平を表現し、小笠原村の漢文字である「小」の字と村民の平和・友愛を親子の小鳥（特別天然記念物ハジマメグロ）で表現しています。

小笠原村の産物



小笠原産物の産物。特産品として、小笠原村の産物として、町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。

小笠原村の産物



小笠原産物の産物。特産品として、小笠原村の産物として、町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。

小笠原村の産物



小笠原産物の産物。特産品として、小笠原村の産物として、町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。

小笠原村の産物



小笠原産物の産物。特産品として、小笠原村の産物として、町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。町で最も有名な産物です。

今（7月）は夏の1年草が咲き始め、秋まで白いマリーゴールド、エキナセア、ローズマリー、ルドベキア、白やピンクの花を徐々に咲かせるブッドレアが多くの昆虫を引き寄せながら迎えてくれます。気候に合わせた新しい品種が多く、黒いペチュニアなど珍しい花も見ることができます。

ビオトープなどもあり、まさに都会のオアシスです。自分では上手く育てられない者としては、こんな観賞スポットを有難く感じました。ガーデナーの志村さん、お話ありがとうございました。



カテゴリ：平成24年度

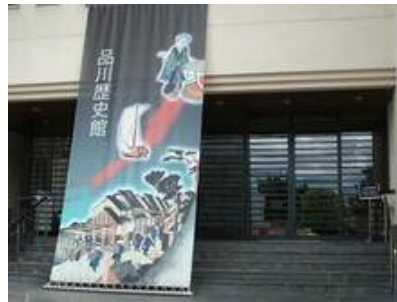
投稿日：2012年08月10日

品川歴史館の「夏休み子ども歴史コーナー」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月10日

8月4日（土）品川区立品川歴史館にお邪魔しました。現在、夏休み特別展として「子ども歴史コーナー」が設けられています。品川区の歴史を身近に、わかりやすく感じることのできる展示です。



鉄道が描かれた広重の立体浮世絵やパズル、区内で出土した土器などに触れるスペースがあり、まだ写真が無かった頃の品川を見ることができます。

また「水と暮らしの世界～江戸時代に学ぶエコ～」というコーナーでは用水や水道管が展示されており、江戸時代から日本がいかに世界に先駆けて優れた上水、下水システムを築いていたかがよく分かります。もちろん洗剤は流されておらず、排泄物は畑に使っていた為に当時の下水は蓋をする必要もない位キレイでした。「木樋」という江戸の水道管が見られるのには驚いてしまいました。



下の写真は品川宿にあった井戸と下水が描かれている絵です。

「水」を通して歴史や環境問題について考えてみるなど、色々な勉強ができます。夏休みの自由研究にもなりそうですよ？



(展示は10/7まで、月曜日、祝日と9/18は休館だそうです。詳しくは品川歴史館HP
をご覧ください↓)

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/06/historyhp/hsindex.html>

2012年8月5日

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月10日

真夏でもちょっと涼しい戸越公園

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月24日

8月19日(土)、雨上りの戸越公園に出かけて小さな自然を味わってきました。

まずは猛烈な蝉しぐれが迎えてくれました。地上に出て、残る短い貴重な一生を、セミは精一杯のエネルギーを放っているように思えました。

小路、滝、せせらぎなど、どれもこぢんまりとまとまっており、緑も多く、エアコンなしの真夏の午後のさわやかさを満喫しました。



東屋の横にあるサルスベリは明るいピンクの花を咲かせ、つぼみがこれからさらに綺麗さを見せてくれることを期待させています。



都会の真ん中にも自然があり、また自然を残す工夫がされているのですね。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年08月24日

‘山中おやこエコクラブ’（9月）開催

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年09月10日

9月1日（土）14～16時、‘山中おやこエコクラブ’で「みんなも虫はかせに！&夏野菜を収穫してピザ作り」を行いました。屋上菜園では夏野菜の収穫、パソコンルームで虫の音やカミキリムシなど昆虫のお話を聞き、まほうの森（第二校庭）で虫を探したあと、家庭科室で夏野菜がたくさん入ったピザのおやつを食べるなど、盛りだくさんの半日でした。



野菜を収穫中

知っている虫の鳴き声に手をあげた

山中小学校の屋上には小さな菜園があります。今回はナス、ピーマン、きゅうり、しそ、ミントを収穫しました。オクラは夏休み中に育ちすぎて、硬くて食べられず、教室のオブジェになりました。サツマイモの収穫はもう少しあとのようです。パソコンルームに移動して、宮原先生から虫の鳴き声について聞きました。クマゼミやミンミンゼミ、エンマコオロギやオカメコオロギ、ほかにはアオマツムシなど。次に下村先生からカミキリムシのお話、昆虫の標本についてお話をいただきました。



セミを見つけたけれど、逃げられた

下村先生から昆虫採集の方法を教わる

第二校庭の「まほうの森」に行き昆虫を探しました。見つかった虫はオンブバッタ、コオロギ（種類不明）ヤマトシジミなどのほかに、蚊がたくさん。最後に採集した虫を逃がして、終了。家庭科室では夏野菜を使ったピザが出来上がっていて、摘んだミントを入れたミントティと一緒におやつタイム。



ギョーザに夏野菜のカレーを載せたピザとキュウリとしそのサラダ、プチトマト、ミントティ
ギョーザに夏野菜のカレーを載せたピザとキュウリとしそのサラダ、プチトマト、

ミントティ

爽やかなミントティとちょっぴり辛口のカレー風味のピザはまだ暑い日にぴったり、大変おいしくいただきました。

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年09月10日

しながわ区民公園の果実いろいろ

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年09月21日

しながわ区民公園はオープン以来25年を経過し、緑が豊富で自然を感じることができ、都会の中のオアシスとなっています。松並木があり、花見の季節には梅や桜が咲き、多くの区民が訪れます。

まだまだ夏の暑さが残る9月15日（土）、しながわ区民公園で一足早い秋を感じてきました。お話を伺ったのは、区民公園管理事務所長の丸山均さんです。区民公園では観賞用としてくだもの木を育てています。ザクロ、夏みかん、みかん、柿、レモンなどです。ザクロはこれから10月にかけて、夏みかんはまさに夏の7～9月に実をつけます。みかんはこれからで、緑色をしたみかんが一杯生っていました。



ザクロ

夏みかん

みかん

たくさんの柿が枝をしならせていました。この柿は渋柿で、柿色に色づく頃には歯形が残った柿が、木の下に落ちているそうです。渋柿は軒下につるして干し柿にして食べますが、昼夜の寒暖の差が大きく、湿気が少ない地方が干し柿づくりには適しており、都会ではなかなか美味しい干し柿は出来ないとのことでした。

今年は実をつけなかったレモンの木もありました。



柿

レモンの木

今年の夏は暑さが長く続いているせいでしょうか、枯葉が目につくそうです。昼過ぎには日向で33℃でしたが、日陰に入ると29℃で、涼を取っている人もいました。エアコンの効いた家の中より、自然の中での気分転換は省エネにもいいですね。



カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年09月21日

太陽光パネルを事務所ビル屋上に設置

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年10月03日

環境保全に熱心な取り組みを展開している東京サラヤ◆（品川区東品川）では、今月（平成24年9月）事務所ビルの屋上に太陽光パネル84枚を設置したとのことで、取材をさせていただきました。



同社ビルは交差点の角にあり、外壁が北東から南東の曲面をした特徴のあるビルです。

その屋上に写真のように垂直にパネルが設置されています。本来太陽光パネルは、できるだけ多くの太陽光を受けることが出来るように、平面との角度を30度に、真南に向けて設置するのが普通ですが、このビルでの設置はそうではありません。理由を伺ったところ、発電効率については当然分かった上での設置ですが、環境重視を標榜する同社としてはまずは太陽光パネルを設置することを最優先し、限られた屋上のスペースを利用するために費用対効果については二の次としたとのことでした。

筆者は、白い曲面の壁に、黒のアクセントがかったビルデザインの新鮮さを感じました。

ちなみに晴れた日の1日の発電量は45kWhで、一般家庭3軒ほどの発電に相当するそうです。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年10月03日

エネルギーと電気を学ぶ施設見学

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年10月03日

9月19日（水）‘エネルギーと電気を学ぶ施設見学バスツアー’に参加しました。主催は‘ECOネット東京62’（東京都内の全62市区町村が連携して取り組んでいる「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」）です。

最初の訪問先は東京都狛江市にある電力中央研究所です。同研究所は電気事業の運営に関わる研究、調査、試験等を行い、電気事業一般業務の能率化に寄与することを目的としています。



はじめに「自然エネルギー発電の活用に向けて」とのテーマで、主に太陽光発電と風力発電について学びました。

【太陽光発電】

・最近では屋根の上に設置された太陽光パネルを見かけることも多くなり、次第に太陽光発電が一般家庭にも浸透していることを実感します。

・長所は、無尽蔵でクリーンであること（基本的にCO₂を排出しない）や可動部が無いためメンテ労力が少なく済む等です。一方短所は、エネルギー密度が低く、かつ発電コストが高いこと、また天気によって左右されるために出力が不安定である等です。

・潜在量は非常に大きいけれどエネルギーを増やすためには広大な面積が必要であることや、現在の高コストをどこまで下げることができるか等の大きな課題があります。

【風力発電】

・長所は、太陽光発電と同じく無尽蔵でクリーン、再生可能エネルギーの中では発電コストが低いことが強みです。しかし短所は、風のエネルギー密度が低く、気象条件により出力が変動する、騒音や景観などの環境への影響等があります。

・風力発電機の設置場所としてはどこが良いでしょうか？「風が強いところ！」と思うのは当然ですが、それは一番の理由ではないそうです。まずは広い土地があること、一枚の羽根は大型ジェット機の主翼程の長さがあるため、それを運ぶために道路がしっかりしていること、また近くに送電線があること等だそうです。もちろん風が弱い所では発電量が少ないことは言うまでもありません。

【研究所内の施設見学】

放射線安全研究センターやシステム技術研究所（電気系統シミュレータ）を見学しました。



放射線安全研究センター



100kVA 発電機模擬装置



66kV 送電線模擬装置

今回改めて再生可能エネルギーについて勉強することが出来ました。以上はほんの一部のご紹介ですが、電力中央研究所（東京都狛江市）では一般の見学も可能とのことです。

機会を見つけて見学されてはいかがでしょうか。

<http://criepi.denken.or.jp/intro/access/komae.html>

午後の訪問先は東芝科学館（川崎市）です。こちらでは省エネの代表であるLEDについてじっくりと話をお聞きました。ご説明していただいた資料をご覧ください。



‘LED’とは‘Light Emitting Diode（[光を][発する][半導体]）’のことで、（少し難しいですが）2種類の半導体と（宝石の）サファイア基板を蒸着（接着）させて作ります。それを細かく切ったものがLEDチップで、これに電圧をかけると発光します。ちなみにLEDも全く熱を出さないわけではないので、放熱する技術が必要です。ただ、照らす光には熱の部分がないので、LEDは熱くならないと言われているのです。LEDの特長は何と言っても長寿命であること、また小さな電力で明るい光を発することができるため電力消費量が少なくて済むことです。



現在LEDは交通信号機、看板の文字表示、車のヘッドライトなど、その特長を活かして各方面に利用されています。また最近では写真のように色温度が調整できる照明器具もあるそうです。

LEDは寿命が長いので早く取り替えて長く使うのがお得ということになります。実際にLED電球を購入する際には、明るさの表示区分とソケットにはまる口金の大きさに注意が必要で、現在使っている電球を販売店にお持ちになると良いでしょう。

東芝科学館では、環境とエネルギー、最新のデジタル技術、東芝1号機などの紹介コーナーがあり、1961年（昭和36年）の開館以来、約1,000万人の来館者があったとのこと。



日本初の扇風機（複製品）



日本初の自動式電気釜

東芝科学館では学ぶことがたくさんあり、見学に行かれることをお勧めします。

<http://www.city.kawasaki.jp/sisetu/tosiba.htm>

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年10月03日

品川清掃工場の見学会

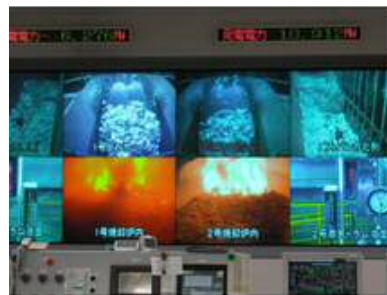
カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年10月26日

品川区八潮にある品川清掃工場の個人見学会に行ってきました。個人見学会（9名以下）は毎月1回行われ、原則として毎月第4土曜日、「広報しながわ」の11日号に掲載されています。

場所は八潮一丁目の海岸沿いで、品川駅東口で都バス品98に乗車し、品川清掃工場まで下車して徒歩5分です。（他には大井町駅東口からバス、りんかい線品川シーサイド駅から徒歩12分）

品川清掃工場管理棟の2階にある見学者の説明会会場で、DVD（「過去、現在そして未来へ...」：15分）を見てから、工場内を見学する約1時間30分のコースでした。



中央制御室（機械と人がチェックします）



説明者は駒井さん

品川清掃工場の前身は大井清掃工場で、古い工場を残し機械を入れ替え、平成18年3月に建て替えられた都内で3番目に新しい工場です。平成12年4月には清掃事業が東京都から23区に移管され、一般廃棄物の中間処理を共同で処理する「東京二十三区清掃一部事務組合」が設置されました。

家庭や事業者から清掃車で回収された可燃ごみは、清掃工場（23区内に21か所、そのうち現在2か所建て替え中）に集められ、計量（ごみの量を計る）→ごみバンカ（ごみをためておく）→ごみクレーン（ごみをかき混ぜ均一化して焼却炉に投入）→焼却炉（約850℃の高温で焼却）を経て、最後は焼却灰を溶解したスラグと排ガスや汚水へと処理されます。



ごみクレーン

ごみを焼却炉に入れる

ごみバンカ（絵は収集車）

焼却により発生した熱エネルギーは有効利用され、作られた電気は清掃工場を動かす施設内で利用され、余った電力は電気事業者（東京電力）へ売却します。品川清掃工場では一日平均10万KWh（10万kWh）の電気が作られ、これは普通家庭のざっと1万世帯分位にあたるそうです。また、高温水は、近くにある八潮団地に送られ、約5,000戸に熱を供給しています。

焼却灰から出きたスラグは、元のごみの状態からすると40分の1ほどになり、土木資材などに利用され、道路のアスファルトなどにもなっています。



焼却炉の模型で説明を聞いています



煙突（内部が見える構造です）

品川清掃工場を一周して、今迄知らなかったことを説明者の駒井さんからたくさん伺いました。◆可燃ごみの中で一番多いものは紙ごみで約4割を占めている、◆家庭の焼却炉ではダイオキシンなどの有害物質が出てしまう、◆生ごみを乾かしてからの方が効率が良いのではと思ったら高温で焼却するので心配ない、など。さらに、◆東京都の清掃工場は23区で共同処理されていること、◆ごみそのまま埋めていると埋立地が30年後にはなくなってしまうこと、◆清掃工場が清潔で悪臭が全くしないこと、など驚くことばかりでした。

見学会に参加し、ごみバンクに溜められたごみの量を見て、つくづくごみになるものを減らす、捨てずにまた使う、もう一度資源として活かす、3Rを続けたいと思いました。



品川清掃工場 6 階から見た湾岸の景色



品川清掃工場模型

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年10月26日

長寿命環境配慮住宅 モデルハウス見学

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年11月06日

11月3日（祝）、東京都都市整備局が進める「長寿命環境配慮住宅モデル事業」のモデルハウスを見学するため、府中市美好町に足を運んで参りました。



今回の相羽建設さんのモデルハウスは4人家族を想定した一軒家で、「長期優良住宅認定」や「すまいの環境効率Sランク」を取得されています。東北でも通用する断熱効果のある壁、窓、温かみを持つ和紙の壁紙、多摩産の杉やパイン材を使った柔らかい印象の室内をはじめ、昼間屋根で暖められた空気を床下へ送るダクト、床の通風口、夏の風通しを考えた窓の取り付けや構造などについて説明をいただきました。



数十年単位で、家族の成長に合わせて間取りの変更が可能なフレキシブルな仕切りの仕組み、太陽光パネル、温水ソーラーシステムなどなど...徹底して効率的な設備という印象です。

建物（設備込み）価格が2,225万円。同業他社の見学も多数あり「採算が取れるの？」と聞かれるほどだそうです。イメージに合わせてデザインされた家具やグッズもあり、楽しい時間でした。...こんな所に住めたら素敵です。



東京都府中市美好町2-52（分倍河原駅より徒歩12分）定休日水・木 10時～17時公開（予約不要）

http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/juutaku_seisaku/chojyumyou/cho_20120817.html

2012年11月4日

カテゴリ：平成24年度

投稿日 : 2012年11月06日

「大人のための環境見学会」に参加しました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年11月09日

10月20日（土）東京都廃棄物埋立管理事務所主催の「大人のための環境見学会」に参加しました。「東京港の埋立」と聞いて筆者に思い浮かぶのは「夢の島」ですが、その後の埋立でゴルフ場やキャンプ場で親しまれている地域ができました。今日では都民の努力でごみの量は減少していますが、更なる埋立処分場の確保は困難になり、現在での埋立可能期間は50年とされています。景気の低迷、リサイクル事業の推進、さまざまなごみ処理方法の改善等により、ごみの量・容積を減らすことができていますが、埋め立てる場所がなくなるといった現実には直面しています。当処分場の概要のビデオを見た後、各施設をマイクロバスの中から見学しました。(1)環境局中防合同庁舎10階の展望回廊見学の際に埋立地を見下ろすことができました。

埋立が終わっている場所（写真中央と右）と現在埋立が行われている場所（写真左奥）

土台から30mまでの高さが埋立可能となっており、写真の高さがその限度だそうです。



(2)粗大ごみ破碎処理施設

畳が裁断されていました。大型のシュレッダーで正方形に裁断し、処理をしやすいです。埋立の前に中間処理施設で破碎・焼却されます。容積を減らすこと（減容化）によって、最終処分場の使用可能年数を伸ばすことができます。特にかさの張る大型のごみには有効です。



(3)不燃ごみ処理センター

不燃ごみは破碎処理され、その中から鉄・アルミを資源として回収します。マットレスの解体処理をしていました（写真右下）。マットレスはバネやウレタンなどでできており、多くの人が人海戦術で作業していました。捨てるのは一時ですが、その後の処理作業には大変なエネルギーを要するのですね。



(4)「東京風ぐるま」(東京臨海風力発電所)

風力発電は石油などの化石燃料と違い、無限にある風をエネルギー源としており、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を出しません。

タワーの高さ44m、羽根の長さ26mで、羽根の先が最高点に達したとき羽根の先端は70mの高さにもなり、20階建てのビルと同じくらいの高さになります。

発電量はその日の風の強さによって変わりますが、一般家庭800軒分の電気を発電することができるそうです。



●東京港の埋立地は子どもや孫の時代で埋め尽くされてしまいます。今回見学した埋立処分場は、小学生の社会科見学を中心として年間5万人ほどの来場があるとのことですが、埋立処分場が一日でも長く使えるよう、3Rの推進など私たちにできる行動をしたいと思います。

【東京都廃棄物埋立処分場】



東京ゲートブリッジ

東京都廃棄物埋立管理事務所
(環境局中防合同庁舎内)
粗大ごみ破碎処理施設
不燃ごみ処理センター
東京風ぐるま

カテゴリ : 平成24年度

投稿日 : 2012年11月09日

しながわ花海道「菜の花の種まき」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年11月28日

平成24年11月11日（日）10時～13時立会川の「しながわ花海道プロジェクト」で恒例の菜の花の種まきが行われました。定刻の10時より15分前に到着した時には、もう作業に取り掛かっている方々が大勢いました。受付で種と肥料（日本ハムグループの工場製）を受け取り作業開始です。まだコスモスや小菊がきれいに咲いていて、抜いてしまうのはもったいないと感じました。



抜いて束ねた小菊



きれいに咲いていたコスモス



作業を手伝う



種まき開始

当日は立正大学地域連携支援室のメンバーが15名参加していて、受付や作業の手伝いなどに大活躍していました。募金箱が設置されていて、寄付した方にはラベンダーのポプリやフウセンカズラの種をプレゼントしていたので、募金してポプリと種をいただきました。抜いた花や枯草は品川区清掃事務所の協力で回収され、この日はあいにくの曇り空でしたが、作業には快適な気温だったこともあって、今年の無事種まきも無事終了しました。



いただいたコスモスと小菊



ポプリとフウセンカズラの種（金魚の中）

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年11月28日

「目黒川みんなのイルミネーション2012」を見てきました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年12月05日

今年も「目黒川みんなのイルミネーション」が始まったので、見学に行ってきました。会場は品川区立五反田ふれあい水辺広場と目黒川の沿道です。点灯日は11月16日。今年から2月のバレンタインデーにも特別点灯されるそうです。（2013年2月9～11日）訪れるのは今回で3回目ですが、イルミネーションがきれいに撮影できるように、点灯直後から待機していました。夕方5時の時報とともに点灯され、通常LEDの明かりは青や白が多く見られますが、こちらはピンクのLEDが華やかで「冬の桜」の名称どおりです。



（2012年12月1日 16時45分撮影）（同 17時 山本橋より撮影）

「エネルギーの地産地消」がテーマで、電力不足により節電が求められるなか、100%自家発電によるLEDイルミネーションの点灯を実現しているそうです。電力の代わりに利用するエネルギーは、周辺の家庭や飲食店から使い終わった食用油を回収して、バイオディーゼル燃料にリサイクルして、点灯します。今年度もアートヴィレッジ大崎セントラルタワーや品川区清掃事務所をはじめ、近隣の全10か所から約1600リットルの廃食油の回収に協力していただいたとのことでした。



イルミネーションの点灯期間は11月16日（金）～12月25日（火）、また点灯時間は午後5時～午後10時で、JR大崎駅より徒歩6分です。「冬の桜」は環境を見つめ、これからのエネルギーを考えるエコイルミネーションでもあり、近くの品川区立大崎光の滝公園の「光の滝」も夜空に映えて美しく、寒い季節ではありますが、訪れてみてはいかがでしょうか？

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年12月05日

環境展示会「エコプロダクツ2012」へ行ってきました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年12月19日

12月13日（木）～15日（土）に東京ビッグサイトで開催されていた日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2012」へ行ってきました。

広大なイベントスペースを全て回るとは大変なのでテーマを絞ることにし、企業の環境活動への取組み紹介コーナーを中心に見ました。

企業の環境活動への取組みについては実際のところあまり知られていないと思いますので、その中からいくつかのブースをご紹介します。

●アサヒビール

始まりはビールびんの王冠に使用していたコルクの代用品を確保するために山林を購入しましたが、この代用品を使うことはなく、健全な森を維持していくためにスギやヒノキの植林をしました。

その後は適切な間伐を行うことで森を活性化し、間伐材を活用した商品開発を進めています。

さらに、森は豊かな生態系を育むためにも森林を適正に管理し、また森づくりの知識と経験を活かした環境啓発活動を行っています。



●東京ガス

人々がより安心して生活するために、社会全体で電気が不足しないよう節電に配慮しつつ、一方でエネルギーの安定確保が必要です。熱と電気をできるだけ「使う場所で作る」システムによりエネルギーをムダなく確保できます。さらに再生可能エネルギーの不安定さをカバーするシステムの導入により再生可能エネルギーを最大限活用でき、今後の大量導入にも寄与できます。

公共性の高い事業会社として非常に大切な取り組みですね。



●セブン&アイ・ホールディングス

イトーヨーカドー アリオ鷺宮店では、壁面緑化の大規模展開、太陽光発電設備の設置、LED照明の採用などを行っています。

セブンイレブンでも太陽光発電やLED照明を採用した環境配慮型店舗があります。店舗以外でも、宅配サービス用の1人乗りの電気自動車（下の写真と同型車）を導入しています。

またあるグループ企業では富士山のふもとの森で自然体験学習や清掃活動を行っています。



●ワークショップ

会場内の3か所でワークショップが開かれていました。

端材、裂き布、どんぐり、粘土などを使い、環境をテーマとしたワークショップには多くの子どもたちが参加していました。



●環境コミュニケーションステージ

環境に関する最新の話題、環境保全への新たな取り組み、サステナブルな暮らし方のヒントなど、様々なエコ情報の発信、紹介がありました。



●今回の印象

見て回ったコーナーにもよりますが、森をテーマにした環境活動の紹介が多かったように思います。また子どもにも環境についての関心を深める企画、視覚へ訴える工夫といったものが目につきました。

ここで紹介できなかった多くの企業でも、同じような環境活動を展開している企業が多くあり、いまや企業の環境活動は特に意識して行う活動ではなくなりつつあると思いました。限られたコーナーしか見ることはできませんでしたが、疲れを感じた時には1万歩をはるかに超えていました。

カテゴリ : 平成24年度

投稿日 : 2012年12月19日

小菊が咲きました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2012年12月21日

小菊が美しく咲いたと連絡をいただいたので取材に行ってきました。場所は八潮北保管所（撤去自転車の保管場所）と品川清掃工場にはさまれた細長い場所です。大井北部陸橋の道路下にあるこの場所は、10年ほど前までは粗大ごみが捨てられ、エノコ草やススキの生えた普通の空き地でした。この場所を開墾して花壇を作った方がいたのです。近所に住む比嘉さんほか5名の方々です。



比嘉さんから送信された小菊の写真 この場所です

こんな看板も立っています

この地をきれいにして花壇を作りたいと品川区に聞いたところ、品川区の管轄地ではなく、東京都建設局の管轄地とわかりましたが、グループの熱意と区の方の支援もあって、花壇を作ることが認められたとのことでした。

春はコスモスや菜の花、夏はアジサイやザクロ、秋は菊、ランタナがたくさん咲く美しい場所に生まれ変わりました。メンバー6名がそれぞれの花壇を作っています。種は自分で購入したものもありますが、食べた後の種が芽吹いたザクロ、鳥が運んできたサクラなども自然に育ちました。まさにエコロジー花壇です。



食べ終わった種が成長したサザ

鳥が運んできたサクラ

沖縄から持ってきた月桃（ゲットリ）

比嘉さんが故郷の沖縄から持ち帰った月桃（ゲットリ）が根付いてしまいました。暖かい沖縄の木が品川の地で育っているのは、やはり温暖化が進んでいるのでは、と話してくださいました。

きれいになった場所には、スズメやヒヨドリもたくさん訪れます。少しだけ植えてある小松菜などの野菜は虫や鳥が食べているので、この場所にはスズメもたくさん来ます。

きれいに咲いた小菊やローズマリーもいただきましたが、捨てられる「ヘクソカズラ」もいただいてリースに仕上げました。「ヘクソカズラ（漢字では屁糞蔓）」は、臭いも青臭く、かわいそうな名前通り地味なつる植物ですが、廃物利用のクリスマス飾りをつけたらかわいらしくなりました。メンバーの加藤さんは、育てた花で押し花を使って今年のカレンダーを作成されました。



加藤さんの作成したカレンダー



いただいた小菊とローズマリーとヘクカスラ



作ったリース

心無い人が花を抜いていったこともあったとのことですが、いつまでも美しい花壇であってほしいと思いました。

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2012年12月21日

水上散歩クルーズ

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年01月18日

25年1月12日（土）品川大田観光まちづくり推進協議会としながわ観光協会・大田観光協会が主催する「船で行こう七福神と旧東海道」に参加しました。コースは5コースあり、品川浦から羽田空港天空橋行き（午前便・午後便）と逆コース（同左）の4コースはいずれも屋形船を使い、ウォーターラインに沿って水上散歩するクルーズです。あと1コースの東海七福神めぐりツアーも品川浦棧橋からしながわ水族館までが船で回るコースです。



屋形船の船内



説明してくれた「船清」の船頭さん

9時15分品川浦棧橋に集合し、屋形船「紫式部」に乗船、9時30分に出発しました。参加者は30名くらいで、船内や海上の説明は屋形船「船清」の船頭さんが詳しくお話をくださいました。船のスピードは早歩き程度、スピードが上がっても自転車位で、のんびり冬の運河のクルーズを満喫しました。最初に見えてきたのは天王洲アイランド、第一ホテルや第四台場の跡などが目に飛び込んできました。京浜運河を進み、東京モノレールや新幹線、釣り人も見かけました。釣れる魚はハゼ、スズキ、ボラなどとのこと。続いて品川清掃工場、勝島運河を過ぎて大井競馬場が見えてきて、10時大井競馬場棧橋着、10時15分しながわ水族館棧橋着。



天王洲アイランド



東品川付近



東京モノレール

京浜運河は思ったよりきれいで、水面にゴミなども見かけず、鶺鴒やダイサギなどの鳥たちも多数見かけました。大井競馬場の対岸にある大井ふ頭中央海浜公園では鳥類の観察やバーベキューもできます。

10時25分大森ふるさと浜辺公園棧橋着、その5分後ガスミオ運河に戻って、昭和島の横を通過しましたが、このあたりは東京湾の浅瀬で土砂が堆積しているので、満潮でも船は通らないそうです。その浅瀬で羽を休ませている鳥を横目に、珍しい羽田可動橋（旋回式の橋、1998年より左右に開いたまま）を見て、海老取運河から天空橋船着き場に着きました。



羽田可動橋



天空橋船着き場



天空橋より船を見る

このツアーは11月にも実施され今回は2回目、東京都が運河の航路を検討するため

の試験運転とのことでした。普段は10500円（料理付ですが）する屋形船を使用して、500円でクルーズが楽しめ、普段は通れない運河や東京湾を船上から見学できて感激の一日となりました。1月26日にも開催予定だそうで、ツアーと事前予約は締切日を過ぎていますが、当日券で乗船は可能とのことですから、問い合わせてはいかがでしょうか。

乗船時にいただいた大田区観光協作成の「大森羽田」の海岸線の地図をみると東京湾の埋め立てが1881年（明治14年）から頻繁に行われ、現在の海岸線になったことがわかります。野鳥や魚が多く棲んでいる東京湾がいつまでも美しい湾であってほしいと感じました。

カテゴリ : 平成24年度

投稿日 : 2013年01月18日

板橋区「環境なんでも見本市」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年02月18日

25年2月2日(土)～3日(日)、板橋区立エコポリスセンターで開催された第11回「環境なんでも見本市」にお邪魔してきました。

自然環境やエコロジーに関するブースの展示はもちろん、緑のカーテン表彰式、環境講演会、ワークショップなども行われていてとても充実していました。



■緑のカーテンコンテスト表彰式



公共施設部門、団体部門、個人部門の三部門応募総数は72作品。レポートから伝わる工夫や思いなども審査の対象となっているようで、目にも涼しい白ゴーヤが収穫でき近所へ振舞われた話や、育成においての失敗点などの情報、夏の屋内に対する効果のみならず、車の日除けや昆虫、猫などの憩いの場になったことなどの報告がありました。

表彰式後の受賞者発表がまた興味深く、「お金をかけずに手間掛ける」をモットーにされた伊東さんは、ゴーヤが深く根を張れるよう100円ショップで購入したプランターを二つつけて深さを確保されたそうです。水受けに水をかかさずたっぷりと与えることに注意したり、壁の内側から外へツタを出して育てていくことなどに苦心されたそうです。手入れの最中道行く人に声を掛けられることも多くなり、二階の内側からの眺めをご披露されたこともあるとか。ご近所の方との交流のきっかけになったそうです。

大井町自然再生観察園ホタル放流

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年02月22日

大井町自然再生観察園でホタルの幼虫を放流します。
お時間のある方はぜひご参加ください。

大井町自然再生観察園ホタル放流

1. 学園内で飼育したホタルの幼虫を放流します。
1. 5月下旬～6月中旬に観察園でホタルの成虫が飛翔します。
1. 放流に関しましては下記の通りとなります。

日時：平成25年3月6日(水)13時～13時20分

場所：大井町自然再生観察園

[住所：品川区大井4丁目22-3 (西光寺隣)]

参加者：小野学園女子中学・高等学校
生環境調査委員 (中1～中3)
大井倉田町会など地域の方々問い合わせ先：小野学園女子中学・高等学校
03-3774-1153 (担当：小澤)見学は自由です。お時間のある方は
ぜひご参加ください。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年02月22日

平成24年度 しながわ環境大賞授賞式・みどりの顕彰式

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月01日

平成25年2月16日（土）きゅりあん小ホールで、しながわ環境大賞授賞式・みどりの顕彰式が行われました。



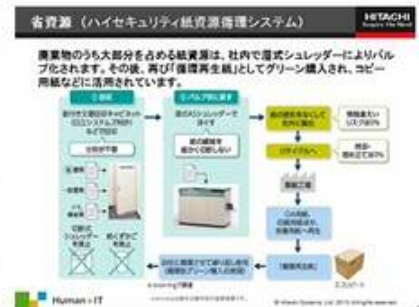
しながわ環境大賞は、今年度で7回目を迎え、区内で環境保全に関する優れた活動をしている団体を顕彰し、その活動を広く区民に紹介することを目的としたもので、今年度は3団体が環境大賞を、6団体が環境賞に選ばれました。

「みどりの顕彰制度」は、今年度で14回目を迎えます。地域の環境や景観の向上に資するような、優れた緑化を行った方々を顕彰し、区民の緑化に対する意識の向上を図るために設けられた制度で、今年度は2団体が緑化大賞を、1団体が緑化賞を受賞しました。

●株式会社 日立システムズ

環境ボランティア及びリサイクル活動の推進

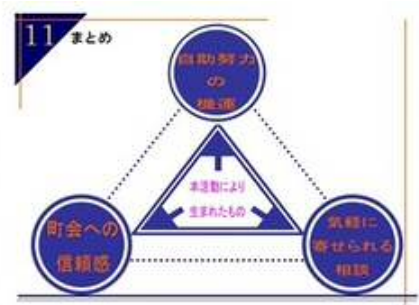
平成17年から毎月1回、社員が清掃活動に取り組み、また、使用済み用紙をすべて回収し、その後再生した製品を再び自社に循環させて、コピー用紙等に活用するなどの活動をしています。



●荏原4丁目町会

地域での蚊・害虫駆除活動

蚊や害虫対策の点検と指導活動を町会員で取り組み、また同時作業でポイ捨ての缶やビン、ペットボトルなどの収集等の活動をしています。



●クリーン五反田

「クリーン五反田」

平成13年から、毎月第2土曜日に商店街組合員及び西五反田1丁目町会並びに日野学園・地域センター・ゆうぼうと・三井生命・スターバックスコーヒー他地元企業と

連携して清掃活動に取り組み、また、放置自転車を減らす目的で街路灯周辺の美観を保つために植栽をするなどの活動をしています。



- 東洋製罐株式会社(事業者)：発表
株式会社竹中工務店(設計者)
東罐共栄株式会社(管理者)
「大崎フォレストビルディング」
高木を多数植栽しており、敷地内に植栽位置や開花時期等を示した案内板を設置するなどの工夫が見られます。



- 株式会社サンケイビル(事業者)
株式会社熊谷組一級建築士事務所(設計者)：発表
ルフォン不動産管理組合(管理者)
「ルフォン不動産」
屋上やバルコニーにも多く緑化し、居住者及び周辺住民からも緑が目につくよう整備するなどの工夫が見られます。



カテゴリ：平成24年度
投稿日：2013年03月01日

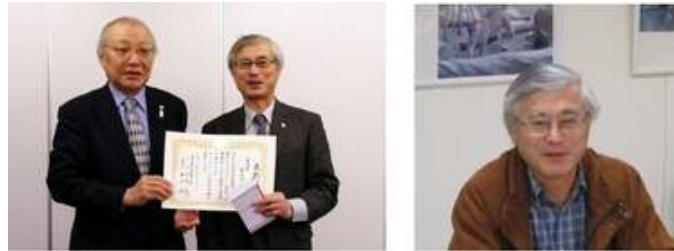
品川区環境記者の新居 邦明様が東京都行政書士会から表彰されました

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月04日

品川区環境記者の新居 邦明様は、このたび東京都行政書士会から会報寄稿優秀賞を受賞されましたのでお話を伺いました。

—— 環境情報活動センターの情報紙「エコだより」などにもお書きになった福島県の農業と原発についての寄稿が、東京都行政書士会からの表彰をお受けになったそうですね。



(東京都行政書士会中西会長（左）より賞状を受ける新居 さん)

「はい、行政書士会の会報『行政書士TOKYO』に昨年寄稿したのですが、会報寄稿優秀賞ということで、2月20日に表彰されました。」

—— 表彰理由はということでしょうか。

「私は、行政書士を開業する前から、田舎暮らしに憧れ、18年ほど前に福島県南会津町（旧田島町）に土地を借り、家を建てて毎週末に通うようになりました。また、当時の仕事が、ある農業関係の企業（きのこの種菌製造）のPR誌の製作することだったこともあり、全国のきのこ栽培農家を取材する中で、自分でも農業とりわけ原木によるきのこ作りをしてみたくなり、13年ほど前から本格的な農家経営を営むようになりました。規模も毎年拡大し、順調な発展をしてきましたが、2011年3月の原発事故は、私の意欲を根こそぎ奪うものでした。しかし、これではいけないと思っていたとき、事故に負けずに農業を続けようと頑張っている多くの農家と知り合い、たくさんの希望と勇気をもらいました。」

「行政書士として、あるいは福島県の農業者として、何ができるか、何をしなければならぬのかを考える中で、福島県の農家の現状、考え、生き方を知りたい、知って多くの人に知ってもらいたいと思い、行政書士の先輩の勧めもあり、行政書士会の会報に寄稿しました。」

「そして、この寄稿をきっかけに昨年12月7日には行政書士会として福島県の農業復興を支援するイベントが行われ、福島県の農家の方が用意した1500パックの野菜、120キロのお米や200人分のきのこ汁などが全部さばけるという成功となったのですが、そうした社会貢献のきっかけにもなったということを評価いただいたのだと思います。」

—— 表彰をお受けになったご感想はいかがですか。

「正直言って受賞には本当に驚き、また心から感謝しています。このような栄誉は、行政書士会の方々、福島県の農家の方々をはじめ、多くの方々の希望と勇気によってもたらされたものだと思います。この受賞の意義を心に銘じ、一層福島県の農業のみならず、地域の復興、さらには品川区のより良い環境作りのために、頑張っていきたいと思います。」

—— ありがとうございます。

カテゴリ：平成24年度

投稿日 : 2013年03月04日

山中小学校PTA「おやこエコクラブ」2月度活動「タケコプターを作って遊ぼう」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月08日



平成25年2月16日(土) 山中小学校理科室にお邪魔して、山中小学校PTAの「おやこエコクラブ」2月度の活動を見学させて頂きました。今回のテーマは、ペットボトルや牛乳パックを使って作製する『タケコプターを作って遊ぼう』です。

1, 2年生を中心としたお友達が帽子とペットボトル持参で集まっていました。



理科室の授業があるのは3年生から、電気の授業は高学年で習うので、モーターで回転するタケコプターの製作は本来なら皆にとって少し難しい内容でしたが、各グループにNPO法人コアネットの先生がサポートにつき、全員が時間内に完成させることができ、とても充実した内容でした。



最後はみんなで記念撮影。全員がとても楽しそうでしたよ。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月08日

「食と農から考える日本の未来」セミナーに参加して

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月18日

平成25年2月16日と3月2日、品川区民大学放送大学連携講座の「食と農から考える日本の未来」セミナーに参加しました。《場所：こみゅにていぶらぎ八潮、講師：野中和雄氏（前放送大学非常勤講師）》

第1回で「世界から見た日本の食と農」をはじめとした、主に世界と日本の農業について考える内容で、第2回目は「日本の食糧自給力」をはじめとした、日本の農業全般についてお話がありました。

●第1回の講義内容

世界から見た日本の食料自給率は供給熱量ベースで40%、その中でも小麦・大豆・トウモロコシは海外に大きく依存していて、過去30年も輸入に頼っているのが現状です。小麦は中国・アメリカが、大豆はアメリカ・ブラジルが、トウモロコシはアメリカ・中国が主に生産し、世界の食料生産国は偏っています。人口の増加やトウモロコシのバイオ燃料の需要が急増しているため、食料の価格は中長期的に上昇の兆しが見えています。この様な変化の中で日本の食糧事情はアメリカ頼みで、トウモロコシは輸入総額の90%、大豆は65%となっていて、食料生産力はフランス・ドイツ・イタリア・イギリスなどの他の先進国と比べても大変低くなっています。

●第2回の講義内容

前回の講義で日本の農業が輸入に頼っているという現状について説明がありました。日本の農業の就業人口は担い手の高齢化と経営の厳しさで年々減少し、農村集落の消滅が続いているのも現状です。このため日本の食料自給力は危険水域で（約40%）、担い手である農業就業人口の平均年齢は65.9歳となっています。しかし近年農業ブーム到来ともいえる、青年（39歳以下）の新規就農は増加傾向にあります。企業も農業ビジネスに注目して参入、2010年（平成22年）3月の51法人から、2011年（平成23年）12月には677法人にまで増加しました。このような新しい動きが農業の多面的な機能を引出し、食料品に加工し販売する安定した農業へ発展する可能性ができました。また農業には環境・文化的な役割もあります。田んぼや森林があれば雨が地面に留まり、洪水の防止や土砂の崩壊防止や土壌の浸食防止につながります。田んぼに水を張ってあれば夏涼しく、昆虫や鳥の棲み処となり、生物多様性の重要な役割を果たします。棚田の美しい景観や祭りなどの文化の伝承という多面的な要素もあります。今後の食・農・里と日本の未来に向けての提言は、◆若い農業経営者等の育成強化、◆中山間地域の再生、◆都市と農山村との連携強協力、◆アジア地域の国々との連携などが考えられます。

この2日間の講義で、今まであまり農業について知識がなかったのですが興味がわき、とても勉強になりました。特に日本が30年間食料輸入量世界第一位という話には驚かされ、日本の農業のためにも国産品を購入して地域を支えることを考えたいと感じました。農業の衰退は田んぼの景観だけでなく、環境問題にもかかわってくるのが印象に残りました。現在注目されているTPP交渉に関する日米共同声明の説明についても、「TPP問題を考える7つのポイント」が分かりやすく参考になりました。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月18日

「ごみ・資源追っかけ隊」に参加

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

3月9日（土）‘ごみ・資源追っかけ隊’に参加し、品川区資源化センターと丸富製紙
◆沼津工場を見学しました。

●品川区資源化センターには14種類の資源が、約10000ヶ所の資源ステーションと
29か所の拠点回収場所から集められています。

コーヒー缶の様なスチール缶、ビールなどのアルミ缶は機械で、ペットボトルは手
で選別され、それぞれ圧縮機で固められます。びんは手で色別に選別され、透明や
茶色のびんは同じ色のびんの原料として再生利用されますが、その他の色びんは道
路や断熱材等、びん以外の原料として使われます。

「生きびん」と書かれたビールや日本酒などのびんが集められていますが、これら
は洗浄されて繰り返し利用されるびんです。これこそ環境にやさしいびんですね。



品川区資源化センター



アルミ缶選別機



アルミ缶のかたまり



左から、透明、茶色、その他の色びん



びんの手選別場所

土はごみでないこと、ごみとして回収されないことはご存知ですね。

園芸用の土は、決まった日時、場所（拠点回収）で回収されて腐葉土を混ぜて、培
養土となってエコフェスティバルやみどりと花のフェスティバルなどで皆さんに無
料で配られます。

紙パックは区の資源回収で集められ、品川区資源化センターに運ばれ、選別・圧
縮・梱包・保管され、その後製紙工場へ持ち込まれます。

●品川区資源化センターから沼津にある丸富製紙◆沼津工場へバスで移動しまし
た。

バスの中での勉強です。



Q1：一番多く出されるごみは何？

◆燃やすごみ ◆粗大ごみ ◆陶器・ガラス・金属ごみ → A1：◆

Q2：品川清掃工場でごみを燃やすと灰になって、どれくらい量が減るか？

◆1/2 ◆1/10 ◆1/20 → A2：◆

Q3：品川清掃工場では何度以上の高温でごみを燃やすでしょうか？

◆100度以上 ◆500度以上 ◆850度以上 → A3：◆

●丸富製紙◆沼津工場へ到着しました。

工場の正門には「環境方針」が掲げられていました。



工場では、回収された牛乳パックなどからトイレトペーパーに生まれ変わる工程を見学しました。

はじめに、牛乳パックは表面と内側の面にポリエチレンフィルムが貼られているため、それを分離処理して紙だけにします。古紙などにはプラスチックや金物などが混じっていますので、これらの不純物を除いて漂白し、さらに水洗浄をした後パルプ化します。ここで大量の水を使うため、水の豊富なこの地域が製紙工場として適しています。

最初に出来上がるのはこんな大きなジャンボロールで、直径2m、長さが2.5mもあります。続いて私たちが使う太さのトイレトペーパーの長いロールとなり、カットされて商品になっていきます。



●現在牛乳パックは、年間約45億箱（1人当たり約35箱）使用されています。そのほとんどが使い捨てられていますが、それらを焼却すれば大気を汚染し処理費がかかります。しかし、再利用することにより、ごみ処理経費を節約するとともに環境保全に役立ちます。紙パックは捨てずに回収に出しましょう。

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

自然エネルギー探訪記 第1回「太陽光発電～ユーザー体験記(3年間の発電記録)」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

*2012年度しながわECOだよりに4回にわたって連載しました、環境記者 林 彰一氏の記事を紹介します。

自然エネルギーと聞いて、一番身近に感じられるのは、太陽光発電ではないでしょうか。最近、「この4月末に、国内の住宅用太陽光発電システム設置は100万件を突破した」と報道されました。品川区内のあちこちの公園では、照明と一体の太陽光パネルをたくさん見かけます。



我が家でも3年前に4.05kWの太陽光発電システムを取り付けました。実際にどんな効果、効用があったのか、ユーザー体験記を少しご披露したいと思います。

取り付けてみて大いにメリットだと実感したのは、

- ◆ 震災などによる長期停電時でも、お日様が出ている時には最大1.5kWまで電気を自給できる安心感がある
- ◆ 昨年の電力供給不足時、節電ピークカットに貢献できたこと。真夏の昼間の冷房用電力は東京電力から買わずに自給。更に発電余剰分を売電供給できた
- ◆ 付属の液晶モニターがスマートメーターになり、電力消費が“見える化”。昨年1年間で25.3%節電達成
- ◆ 「ナイト10」という昼間高く、夜安い電力契約に変更し、節電型生活リズムに変えたことで、昨年1年間だけでも前年比で約2万2千円の電気代節
- ◆ 約等です。やってみなければ分からないことばかりでした。

設置費用は補助金を引いて、自己資金分が約210万円。売電収入と買わなくて済んだ電気代の過去実績をもとに投資回収予想期間を計算すると、17年になります。寄せ棟屋根に無理に多くのパネルを設置し過ぎたことや、木陰よる季節的な発電低下のために、少し成績が悪いかもしれません。しかし、今後の電気代高騰やCO2削減の環境価値販売による回収期間前倒しが予想されますし、今のところ故障も全くなく、前述の◆～◆のプライスレスなメリットを加味して考えていますので、私自身は十分満足しています。



(品川区環境記者 林 彰一)

< 平成24年6月発行しながわECOだより 2012年度Vol.1掲載 >

カテゴリ: **平成24年度**

投稿日: 2013年03月20日

自然エネルギー探訪記 第2回「直接メタノール型燃料電池搭載のヨットでクルーズ体験」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

2012年度しながわECOだよりに4回にわたって連載しました、環境記者 林 彰一氏の記事を紹介します。

今回は、大阪まで出張し、世界でも珍しい燃料電池とモーターを搭載したヨット「ブルーノア号」に試乗する機会がありましたので、レポートします。



燃料電池は、シリーズ名「自然エネルギー探訪記」の“自然エネルギー”に該当するかというと微妙ですが、燃料に水素やメタノールを利用し、二酸化炭素排出が大変少なく、クリーン電源として脚光を浴びているものです。この燃料を太陽光や風力発電など自然エネルギーを使って生産すれば、そのエネルギーを燃料のかたちで備蓄し、必要なときに利用することが可能になります。

燃料電池の詳しい解説は省きますが、簡単に言うと、燃料である水素と空気中の酸素を、燃料電池セルという容器の中で反応させて電気を取り出すという、電池というよりは“発電機”です。

すでに都市ガスから水素を生成する“エネファーム”という家庭向け燃料電池が実用化され、一般販売されています。また最近では、2015年に大手自動車会社が燃料電池車を発売する計画という新聞報道もありました。

ヨットの場合は基本的には風まかせですが、無風時、非常時にはディーゼルエンジンなどの動力を使ってスクリューを回し、航行します。この動力を燃料電池とモーターで代替するわけです。燃料はメタノール水溶液。船舶には水素ガスより安全で取り扱いやすいそうです。

試乗したブルーノア号の船底には、発電能力250W燃料電池、2.4kW出力モーター、燃料供給系装置、リチウムイオンと鉛蓄電池、充電器等で構成される駆動システムが設置されていました。



関西国際空港が間近に臨めるマリナーからの出航、帰航時にモーターで航行。本当に静かで排ガス臭もなく、海や風、自然を感じたいヨットマンには格好の未来の動力を体感できました。

1級小型船舶操縦士の免許を持つオーナーの岩崎孝彦氏は、この燃料電池システムの有効性、耐久性等の運用実証のために、今年9月、大阪からシンガポールまで6000kmの単独航海に挑むとのこと。

採用されたドイツ製の最新鋭燃料電池は試作レベルで、まだ高価。しかし、住宅、車、船舶、家電製品や産業機器等にも用途が広がって、量産効果により価格は確実に下がっていくでしょう。かつて携帯電話で起こったような、爆発的な普及を予感しました。それは超小型分散型のエネルギー革命です。

(品川区環境記者 林 彰一)

<平成24年9月発行 しながわECOだより2012年度Vol.2掲載>

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2013年03月20日

然エネルギー探訪記 第3回「コジェネレーション～ドイツで学んだエネルギー高効率の知恵」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

2012年度しながわECOだよりに4回にわたって連載しました、環境記者 林 彰一氏の記事を紹介します。

今年はじめにドイツのエネルギー事情を現地視察する機会に恵まれました。原子力発電を2022年までに全廃することを決定したドイツですが、その原子力発電への依存度が50%と高かったバーデン・ビュルテンブルグ州の都市や村を回りました。いたる所で自然エネルギーへの転換が今、猛烈な勢いで進められています。

自然エネルギーと聞くと、太陽光発電や風力発電が真っ先に思い浮かびます。視察では、ドイツ自慢のメガソーラーとかウインドファームと呼ばれる大規模発電所に行くのかと思いましたが、小規模なコジェネレーション（以下コジェネと略す）モジュールというガスタービンエンジン施設に案内されました。発生、発電の意味の“ジェネレーション”の頭に“コ”（共に）が付くのは、発生する熱と電気、共にエネルギーとして利用するからです。原子力発電所でも火力発電所でも膨大な熱が発生していますが、ほとんどが空気中や排水中に捨てられます。コジェネでは、発電で発生した熱を使って水を高温高压の熱水にし、暖房・給湯用として近隣コミュニティに供給しているのです。



初日、モスバッハ市郊外の農家エッゲンベルガーさんを訪ねました。



彼は、牧草とトウモロコシ、牧畜から出る糞尿を混合し、6週間程発酵させてバイオ（メタン）ガスを製造しています。その全量をモスバッハ都市事業公社がコジェネ用燃料として買い上げ、エネルギー地産地消を実現しています。原発だけでなく、地球温暖化の要因でもあり、将来枯渇し価格も高騰する化石燃料依存からの早急な脱却をドイツ人は強く意識しているようです。



その都市事業公社のコジェネモジュールは、エッゲンベルガーさんのバイオガスプラントから2.3kmも離れたヴァルトシュタット地区にあります。その700世帯へ年間発電量300万kWhの送電とともに、年間330万kWh相当の熱(110℃高圧熱水)も地域熱供給網で送られています。

ドイツは寒冷地であり、モスバッハに限らず伝統的に熱利用が盛んです。2009年のIEA統計では、470,547テラジュール産出され、日本の約20倍。ドイツの人口は日本の約64%なので、一人当たり換算では約31倍です。従来の火力発電所では、燃料が持つエネルギーのうち36%位しか電気エネルギーとして供給できませんが、コジェネでは87%もの高効率でエネルギーが使えるそうです。

日本の発電所で大半の熱を捨てているなんて、本当にもったいないことです。(品川区環境記者 林 彰一)

<平成24年12月発行 しながわECOだより2012年度Vol.3掲載>

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2013年03月20日

自然エネルギー探訪記 最終回 「家庭向け蓄電池を試してみる」

カテゴリ：平成24年度

投稿日：2013年03月20日

2012年度しながわECOだよりに4回にわたって連載しました、環境記者 林 彰一氏の記事を紹介します。

自然エネルギーの大半は、発電が一定でなく変動することが特色です。特に太陽光発電は、夜や雲の厚い曇りや雨、積雪の時間帯には発電出来ません。こうした時に電気を使いたい場合は、よそから電気をもらうか、貯めておいた電気を利用するかどちらかです。最終回は、家庭で電気を貯めて使うお話です。

昨年夏、私は仲間と一緒に中国製リチウムイオン蓄電池を共同購入しました。長時間停電の非常事態に備えること、電力供給が逼迫している時間帯に購入電力を落とすことが目的でした。2個で大容量の2.4kWh。円高で、お買い得の12万円でした。併せて、

- ・充電器（コンセントから電気をとって蓄電池に充電）
- ・インバータ（蓄電池の電気を直流から交流に変換して電気を供給する機器）
- ・接続ケーブル類

も必要です。インバータは冷蔵庫やエアコンでも使えるように、

DC12V->AC100V、最大出力1500Wの正弦波タイプを選び、総額16万円程度で済みました。



実験では、満充電後、居室にあるパソコン、液晶モニター、プリンタ、電気掃除機等の電源に使用し、消費電力や時間を計測しました。これらを断続的に20時間半使用し、2.07kWh消費したところで電圧低下アラームが鳴り、電力ストップするまでの間、全く問題なく使い続けることができました。計算上、満タン量の86.3%が利用できたこととなります。そこから再度満タン充電するのに9時間半程かかりました。

こんなふうに使ってみて実感できたメリットは、

- ・太陽光発電の電気でも電力会社から買った電気でも 簡単に貯められ、いつでも使える利便性
- ・非常時の安心感

という点です。電力会社との契約により、半額以下の割安な深夜電力を使って蓄電すれば、経済性も上がります。

他方、家庭で使うにあたっての課題も見つかりました。まず、置き場所です。必要スペースは縦横高さそれぞれ35cm程度ですが、宅内に適当な場所を確保しなければなりません。インバータや充電器の冷却ファンの音も静かな部屋ではやや気になります。その他、残量表示や充電時30%、給電時10%ものエネルギーロス等も要改善です。

しかしメリットの効用は、課題点を補って余りある大きなもので、例えば、キッチン・ダイニングの照明、冷蔵庫、テレビや情報通信機器等の専用電源としてこの蓄充電システムを設置すれば常用できますし、長時間停電の非常時には家族のシエ

ルター部屋に早変わりします。太陽光発電があれば、さらに強固なシステムになります。

大手電機メーカーもそこに目をつけて、上述の課題を解消した家庭向け蓄電池システム製品を続々と発表していますが、私の倍くらいの蓄電容量で約200万円の費用がかかるようです。

(品川区環境記者 林 彰一)

<平成25年3月発行 しながわECOだより2012年度Vol.4掲載>

カテゴリ: 平成24年度

投稿日: 2013年03月20日